



Quality Teaching for All Learners

QTAL連携機関会員 募集中

この度、京都大学大学院教育学研究科教育実践コラボレーション・センターE.FORUM では、QTAL（Quality Teaching for All Learners：すべての学習者に質の高い教育を！）というサイト*を立ち上げました。良質な単元指導計画や教材、研修用動画など、先生方の実践に役立つ各種資料を蓄積・共有していくプラットフォームとなることをめざしております。

ただいま、QTAL「連携機関会員」を募集しております。「連携機関会員」としては、E.FORUM 及びQTALサイトの趣旨に賛同し連携してくださる教育委員会や教育機関等にご入会いただけます（教育委員会、教育センター、小学校・中学校・高等学校等の連携機関会員会費は、当面の間、無料です）。

* 本サイトは、内閣府によるSIP（戦略的イノベーション創造プログラム）の課題「ポストコロナ時代の学び方・働き方を実現するプラットフォームの構築」における研究開発テーマ「真正で探究的な学びを実現する教育コンテンツと評価手法の開発」（研究開発責任者：松下佳代）の一環として構築いたしました。



連携機関会員の関係者様を対象とした研修会を提供します

- ・ 同時双方向のオンライン配信による研修（2026年度実施予定）
 - ※ 時間はいずれも16:30-17:30
 - ※ 研修を受講される方は、QTAL一般会員（個人会員）としてのご登録が必要です。

日時	講義名	講師名
2026年4月30日（木）	学校におけるカリキュラム改善の進め方	西岡加名恵（京都大学）
5月28日（木）	高次の資質・能力を育てる真正の学び**	石井 英真（京都大学）
6月25日（木）	パフォーマンス課題の作り方**	奥村 好美（京都大学）
7月30日（木）	探究的な学習の指導と評価	西岡加名恵（京都大学）

** 本研修は内閣府によるSIP（戦略的イノベーション創造プログラム）の課題「ポストコロナ時代の学び方・働き方を実現するプラットフォームの構築」における研究開発テーマ「真正で探究的な学びを実現する教育コンテンツと評価手法の開発」（研究開発責任者：松下佳代）の一環として実施いたします。



連携機関会員様にお願いしたいこと

- ・ QTALサイトにて、貴機関名を連携機関会員として表示することへのご了解
- ・ E.FORUMが主催する研修会等の広報へのご協力
- ・ QTALへの入会案内の周知へのご協力
学校教職員、教育委員会関係者、教育支援職、その他子どもの支援に携わる専門職、及び教育機関に所属する方々であれば、無料にてご登録いただけます。
- ・ E.FORUM の研修内容を活かして優れた実践が生み出された場合、関連する資料のQTALサイトへのご提供

連携機関会員お申込みはこちら ▶▶ <https://forms.gle/Rn8U6scuHe6zdueC9>



<問合せ先>

京都大学大学院教育学研究科 教育実践コラボレーション・センターE.FORUM
e-mail: e-forum.qtal@educ.kyoto-u.ac.jp（QTAL担当）



QTALサイトはこちら ▼▼
<https://qtal.educ.kyoto-u.ac.jp/>



QTALには、下記のようなコンテンツが掲載されています。



AICAN
Authentic and Inquiry learning focused educational
Content and Assessment Development

パフォーマンス評価に関するコンテンツ

パフォーマンス評価とは、知識やスキルを活用して思考・判断したり探究したりする力を評価する方法です。QTALでは、パフォーマンス課題を取り入れた単元指導計画に加え、児童・生徒がより興味・関心をもって取り組めるような各種デジタル・コンテンツを提供していきます。教材の一部のみを使用するなど、カスタマイズも可能です。

単元指導計画

教科	社会科	学校段階・学年	小学5年
単元名	情報を活かして発展する産業		
教材名	「情報（データ）の力」で八万食堂を立て直そう！」（経営戦略のコンサル）		
実施時期	12月～1月	単元の時間数	全 7 H
学習指導要領の関連内容			
(4) 我が国の産業と情報との関わりについて、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。			
ア 次のような知識及び技能を身に付けること。			
(イ) 大量の情報や情報通信技術の活用は、様々な産業を発展させ、国民生活を向上させていることを理解すること。			
イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。			
(イ) 情報の種類、情報の活用の仕方などに着目して、産業における情報活用の現状を捉え、情報を生かして発展する産業が国民生活に果たす役割を考え、表現すること。			
2 この教科・単元で重視したいこと（学習者の実態、教科の本質、社会に出てからの必要性等）			
本単元「情報を活かして発展する産業」は、一般的に、各産業の情報活用の事例（医療の場合、観光の場合、福祉の場合等）について個別の知識を断片的に知る活動に終始する傾向にある。そのため、単に各事例を「知る」ということから、情報を活かして発展する産業について個別の具体を主として抽象化して「認識を深める（社会の理解度を上げる）」ということを目指したい。「認識を深める」ためには、子どもたちが実際の社会問題に対して、単元の中で学んだことを武器にして具体と抽象を行き来しつつ、			

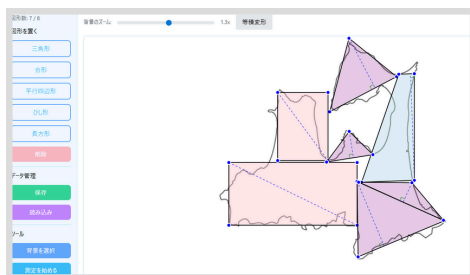
プリント教材

「和の文化」を知ろう！
—おすしの歴史—
 おすしはどのようにして生まれたの？
 ・東南アジアの「なれずし」という発酵食品がもとになって生まれた。
 ・米つぶがどろどろになるまで発酵させるのが特ちょう。当時は山の多い地域に住んでいた民族が、手に入りやすかった魚を持ちこさせるための方法として編み出したもの。
日本のおすしの歴史
 奈良時代
 なれずし：酢(す)は使わない。ご飯は食べずに、発酵のために使うものだった。

動画教材

くうき
 空気
 (酸素と二酸化炭素とちっ素)
 酸素のつぶ
 二酸化炭素のつぶ
 ちっ素のつぶ

シミュレーター教材



シミュレーターを活用して「風力最強のハンディファン」を探る。

研修用動画

「逆向き設計」論とは何か
 AICAN
 Authentic and Inquiry learning focused educational
 Content and Assessment development

※本デジタル・コンテンツ開発は、内閣府によるSIP（戦略的イノベーション創造プログラム）の課題「ポストコロナ時代の学び方・働き方を実現するプラットフォームの構築」における研究開発テーマ「真正で探究的な学びを実現する教育コンテンツと評価手法の開発」（研究開発責任者：松下佳代）の一環として行っています。



「生きる」教育
 Education for Living

『生きる』教育に関するコンテンツ

『生きる』教育とは、子どもたちが直面する「人生の困難」を解決するために必要な知識を習得し、友だちと真剣に話し合うことで安全な価値観を育むことをめざす教育です。QTALからは、単元指導計画に加え、教材・教具のデータ等のダウンロードが可能です。研究会のアーカイブ動画もご覧いただけます。

単元指導計画

「生きる教育」 Education for Living

京都大学大学院教育学研究科 教育実践コアレーション・センター E-FORUM

「生きる」教育プロジェクト

単元「子どもの権利条約って知ってる？」指導案

※以下でご提案しているのは、一例のついでです。先生方の目標や子どもたちの実態に合わせて、適宜、アレンジして実践していただければ幸いです。

※ [] 内の数字は、ウェブサイトに掲載しているファイルのナンバリングを示しています。

教科名	総合的な学習の時間など	学校段階・学年	小学校・3年生			
単元名	子どもの権利条約って知ってる？——自分の自分と向き合う					
単元の時間数	全 4 H					
単元目標						
・子どもの権利条約の学習をとおして、幸福に生きて成長するために家族や教育などが保障されること、心れること、社会に参加できることを知る。						
・すべての人の生まれたときから有している権利は幸福な生活を営むために不可欠であり、守られなければならないことを理解する。						
・自分たちの身の回りにと守られている権利、守られていない権利があることに気がつき、自他の権利を守行動を起こせるようになる。また、権利の学習を通して自分の大切にしているものについて理解を深める。						
単元の指導の流れ						
時数	教師による指導	子どもの活動、反応例	教材・教具など			

ダウンロード可能な教材

第2章 生活の権利
 第6章 生活の権利
 第9章 生活の権利
 第12章 生活の権利
 第16章 生活の権利
 第19章 生活の権利
 第24章 生活の権利
 第27章 生活の権利
 第28章 生活の権利
 第31章 生活の権利

研修用動画

Trauma Informed Education Since 1920
 【中3】社会の中の「親」と「子」
 【中2】リアルデートDV ～支配と依存～
 【中1】思春期の脳 ～トラウマ・アタッチメント～
 【小2・3・4】治療的教育
 【小5・6】予防教育
 【小1】心身のプライベートエリア

※本デジタル・コンテンツ開発は、SMBC京大スタジオの共同プロジェクト「貧困・格差・虐待の連鎖を乗り越える教育アプローチの研究開発と普及（通称：『生きる』教育プロジェクト）」（プロジェクト代表：西岡加名恵、山本尚毅）の一環として行っています。